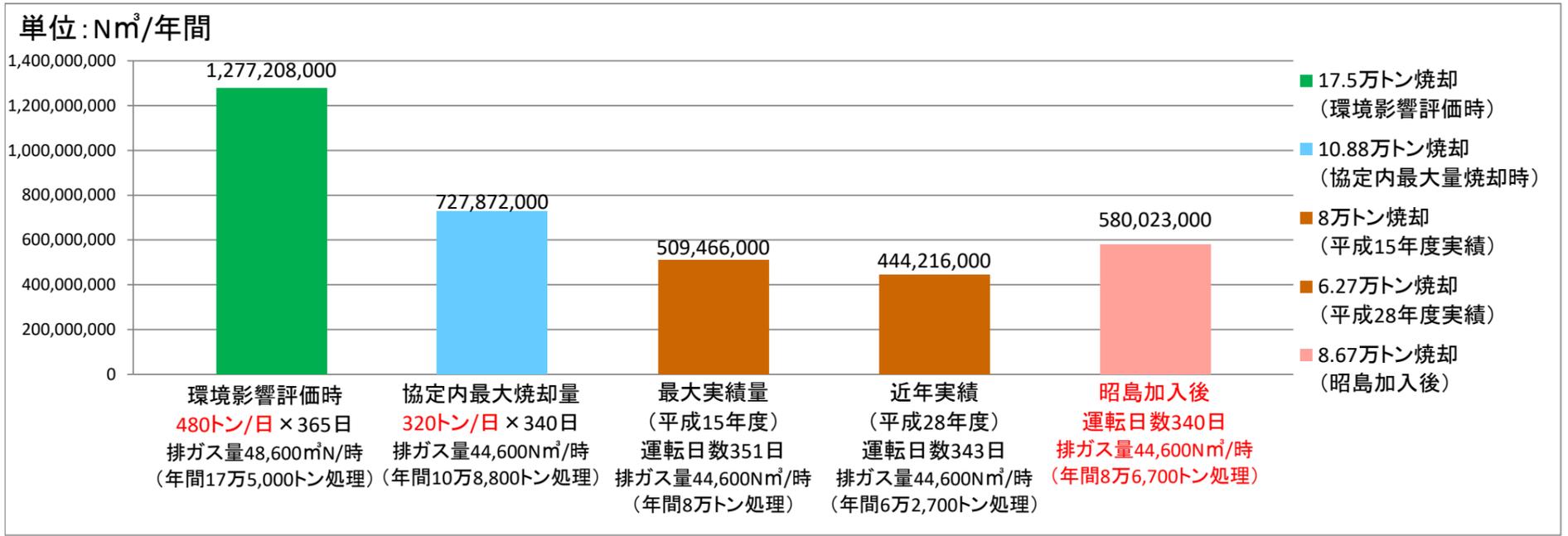


# 焼却量の変化による1年間の総排出ガス量の変化



※1 環境影響評価時の排出ガス量(平均排出ガス量: 48,600Nm<sup>3</sup>/h × 時間: 26,280)は1日480トン処理した場合、1年間にどれくらいの排出ガスが出るかということを示している。運転日数は1年間(365日)で評価されているため、処理量も480トン × 365日で計算して年間17万5,000トンとしている。

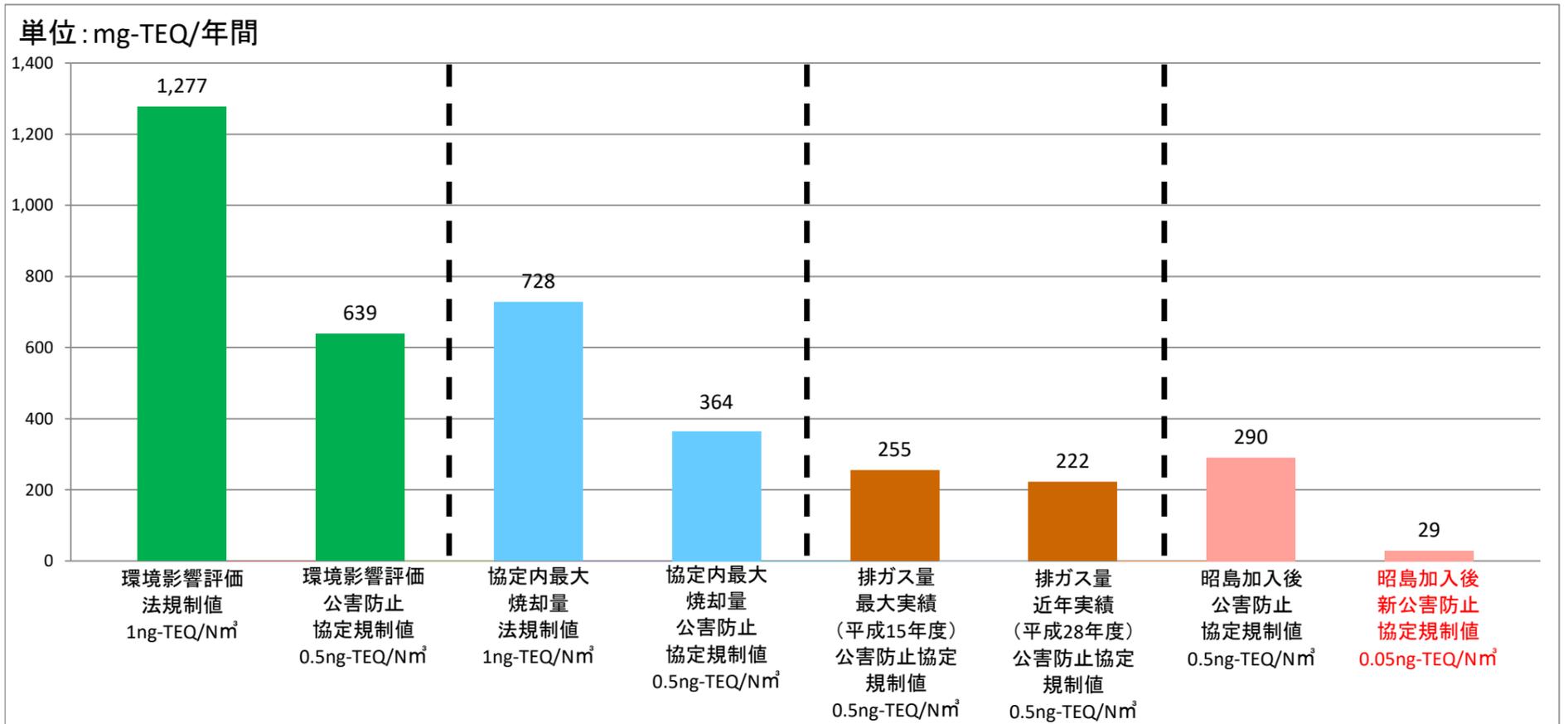
※2 協定内最大焼却量は1日320トン処理で340日(全炉停止を加味)運転した場合の排出ガス量となっている。1時間当たりの排出ガス量(44,600Nm<sup>3</sup>/h)は近年の平成28年度の実績を用いて計算している。

※3 環境センター最大実績量は平成15年度の年間約8万トン処理時で、運転日数は351日で1時間当たりの排出ガス量は44,600Nm<sup>3</sup>/hとなっている。

※4 近年実績は平成28年度の年間約6万2,700トン処理時で、運転日数は343日で1時間当たりの排出ガス量は44,600Nm<sup>3</sup>/hとなっている。

※5 昭島加入後の予測は、年間処理量が現在より**2万4,000トン増の8万6,700トン**、運転日数340日で1時間当たりの排出ガス量は平成28年の実績値を使用して計算している。

## 排出ガス量と規制値の変化によるダイオキシン類の排出量の変化



- 環境影響評価の排出ガス量で法規制値の1ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>を1年間排出し続けた場合の値。焼却量17万5,000トン、運転時間26,280時間、年間Dxn類排出量1,277mg-TEQ
- 環境影響評価の排出ガス量で協定規制値の0.5ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>を1年間排出し続けた場合の値。焼却量17万5,000トン、運転時間26,280時間、年間Dxn類排出量639mg-TEQ
- 協定内最大焼却量の排出ガス量で法規制値の1ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>を1年間排出し続けた場合の値。焼却量10万8,800トン、運転時間16,320時間、年間Dxn排出量728mg-TEQ
- 協定内最大焼却量の排出ガス量で協定規制値の0.5ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>を1年間排出し続けた場合の値。焼却量10万8,800トン、運転時間16,320時間、年間Dxn排出量364mg-TEQ
- 環境センター最大実績の排出ガス量で協定規制値の0.5ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>を1年間排出し続けた場合の値。焼却量8万トン、運転時間11,423時間、年間Dxn排出量255mg-TEQ
- 平成28年度実績の排出ガス量で協定規制値の0.5ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>を1年間排出し続けた場合の値。焼却量6.27万トン、運転時間9,960時間、年間Dxn排出量222mg-TEQ
- 昭島加入後の排出ガス量で協定規制値の0.5ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>を1年間排出し続けた場合の値。焼却量8万6,700トン、運転時間13,005時間、年間Dxn排出量290mg-TEQ
- 昭島加入後の排出ガス量で新協定規制値の0.05ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>を1年間排出し続けた場合の値。焼却量8万6,700トン、運転時間13,005時間、年間Dxn排出量29mg-TEQ

※ ダイオキシン類は濃度規制はあるが、総量規制はない。

※2 計算式は総排出ガス量 × 排出濃度 ÷ 1,000,000 (ナノ→ミリ) 例 平成28年度 444,216,000 × 0.5 ÷ 1,000,000 = 222mg-TEQ/年間